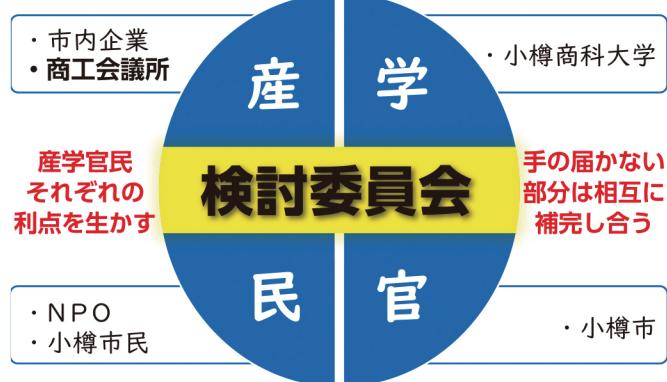


お試し移住体験施策の見直し

移住施策として多くの自治体が実施しているが、観光など移住以外の目的で利用されるケースが多く、移住に結びつくことが少ない。

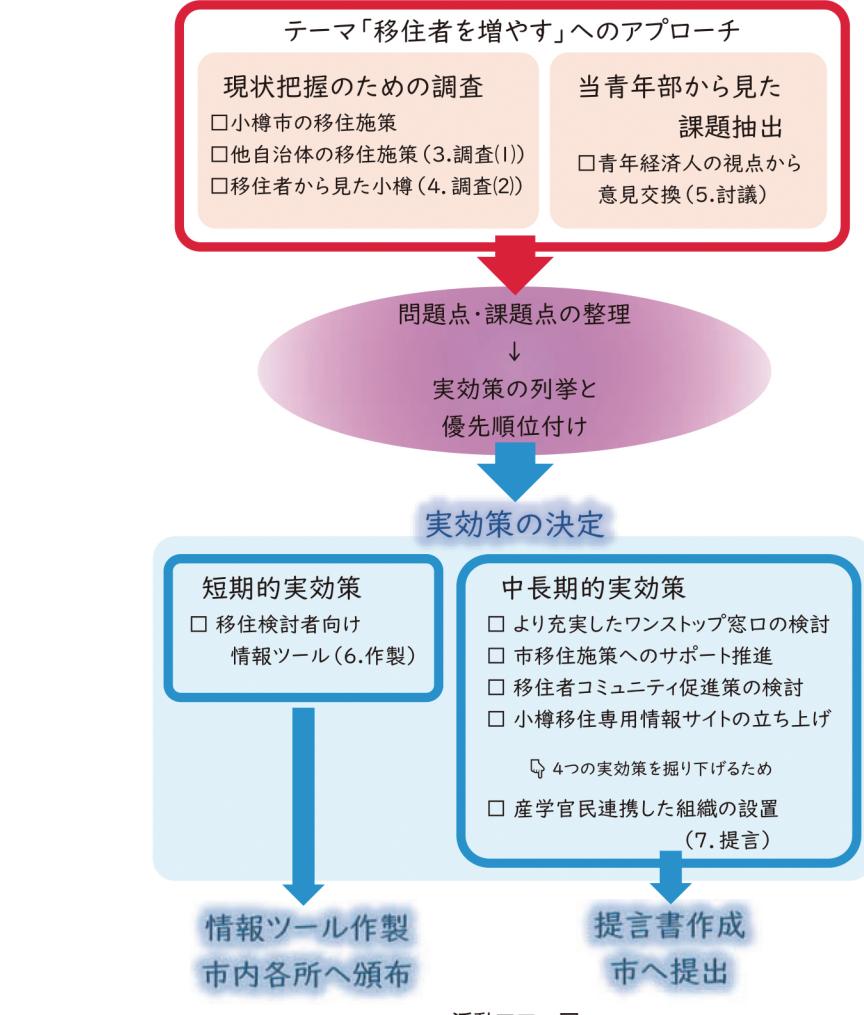
調査(2) 移住者から見た小樽

小樽への移住者に、これまでの生活経験をもとに、移住前後で小樽の魅力や課題について、次のような声が寄せられました。



移住施策を検討する組織のイメージ

来ていらないケースもあり、相談窓口を充実させることは、移住者等が持つ悩みや不安、孤立化を防ぐことも繋がります。また、移住者目線で課題を認識・蓄積できる機会が増え、その解決に取り組むことで、移住施策のさらなる充実が期待できます。より充実した窓口を目指すため、産学官民が連携した組織を設置し、幅広い見地から移住者を呼び込む施策を検討することが必要であると考えます。



活動フロー図

元高齢者とのマッチング事業、移住者の相談など、寄り添ってくれる体制・施策が必要

短期的切り口「情報ツール」

この調査結果で、移住して良かつた点は、街並み・暮らしについて好意的なコメントが多く見られました。

また、「小樽の強みは、他の街にはない石蔵や古民家など、歴史や文化を感じる街並みや雰囲気があり、もっと情報発信すべき」とのコメントに代表されるとおり、小樽にはアーティスト質や起業家気質のようなインスピレーションを刺激する魅力があるようです。

一方で、「観光のイメージが強く、実際に移住してみると、雪の多さや暖房の費用など、想像していないかと苦しみ、小樽のマイナス面もしつかり伝えるべき」との意見もありました。

当青年部では、「子育て環境の充実や企業誘致、銭函工業地域の用途変更など、今後、オール小樽で多くのアイデアを持ち寄り、共有することが出来れば、移住者増に向かた大きな原動力になるのではないか」と考えました。

中長期的切り口「小樽市へ提言」

小樽市では平成17年から相談窓口を設け、移住者に寄り添つた対応に取り組んでいますが、行政単独では、充実した移住者へのサービスが難しい場合もあります。例えば、就業先はハローワーク、住まいはインターネットで不動産を探すなど、ワンストップ対応が出

小樽に移住した多くの方は、実際に住み始めて苦労した事や想定外の出来事など、戸惑いと苦い経験を持っていることがわかりました。中には、大きなギャップに耐え切れず故郷に戻った事例もあり、暮らすための事前情報が乏しかったためと考えられます。

また、小樽には観光の情報は多いものの、移住検討者向けは殆ど無く、その必要性を強く感じたことから、移住検討者向けの情報ツールを短期的な実効策として、小樽での生活に有用な情報、特に生

今回、移住施策を調査・研究する中で「空き家問題」と「移住促進」をマッチングしている市内NPO法人は、「小樽が大好きで、小樽のことを考えてくれる人に移住してもらいたい」との思いから移

らしい施策があつても、移住者・移住検討者に伝わらなければ効果は期待できないため、情報の内容と発信方法を含めた検討。

■小樽移住専用情報サイトの開設

どんなに魅力ある街でも、素晴らしい施策があつても、移住者・移住検討者に伝わらなければ効果は期待できないため、情報の内容と発信方法を含めた検討。

小樽市は観光都市として知名度が高く、高速交通網などの社会資本整備が進められているなど、将来の外国人雇用を見据えた環境整備のための方策の検討。

■市移住施策へのサポート推進

小樽ならではの婚活イベントの実施、石造倉庫、古民家などを活用した起業家の誘致や、施策の見直しなど、オール小樽で企画・検討。

■移住者コミュニティ促進策

移住者同士の交流・情報共有は、不安解消・課題解決に有効なため、コミュニティ活性化させて、小樽市全体でサポートする体制を整えていく方策の検討。

小樽移住専用情報サイトの開設

どんなに魅力ある街でも、素晴らしい施策があつても、移住者・移住検討者に伝わらなければ効果は期待できないため、情報の内容と発信方法を含めた検討。

小樽市は観光都市として知名度が高く、高速交通網などの社会資本整備が進められているなど、将来の外国人雇用を見据えた環境整備のための方策の検討。

■市移住施策へのサポート推進

小樽ならではの婚活イベントの実施、石造倉庫、古民家などを活用した起業家の誘致や、施策の見直しなど、オール小樽で企画・検討。

■移住者コミュニティ促進策

移住者